

六稜會報

昭和52年9月15日発行
発行 府立北野高等学校内
六稜同窓会
〒532 淀川区新北野2丁目5-13
電話 06 (303) 5 6 6 1代表
振替 大阪6 8 0 2 5
編集 山本次郎・溝脇正巳
印刷 藤江コロタイプ印刷株式会社
電話 06 (762) 1 8 6 8代表

No. 10 1977・9・15

総会の御案内

11月3日(文化の日)

母校で!!

スポーツ親善試合と大ビールパーティ

六稜同窓生の皆様、その後愈々御清栄で御活躍のことと存じます。

早いもので、また同窓会の季節がめぐって参りました。ことしの六稜同窓会総会は、昨年と同じ11月3日の午後、母校において、下記のとおり行うことになりましたので御案内申し上げます。

昨年の総会のときは、600名をこえる六稜同窓生が全国各地から大挙母校に集り、大成功に終わりました。戦火の跡を今もとどめる校舎の壁、ペンキのはがれ落ちた体育館、ちょっぴり年はとったが面影は昔と全く変わらない先生方や同級生の諸君——みんな手をとり、青春時代にかえって杯を酌み交わし、懐しがっていました。

どうか今年も、昨年に倍する皆様方の御参集を心からお待ち申し上げます。

スポーツ親善試合 (小雨決行)

【野球】 11時プレイボール 運動場
選抜野球優勝チーム 対 北野教職員チーム

【ラグビー】 1時キックオフ 運動場
現役OB・紅白親善試合

【テニス】 12時 テニスコート
現役OB・親善ダブルス四試合

【バレー】 12時 運動場コート
現役OB・親善試合

総会 2時 講堂

会務報告、会計報告、常任理事補充の件
体育館新設に関する件、事業計画の説明等

卓話 日本の防衛の実際

植村英一氏 (47期、元空将)

大ビールパーティ 3時半 体育館

会費 ¥2,000



昨年度総会パーティ風景

於 母校体育館

昨年の総会から

1976. 11. 3 於母校

卓話

手塚治虫氏 (59期)

59期の手塚です。東京六校会には時折顔を出しますが、あの会はもう随分つづき、そろそろトウがたちかかって居りまして、大阪における新しい同窓会の会場が、かように母校内に決まるというような素敵な企画に対して、いささか羨ましくもあります。この講堂は私の後ろに御真影などがあり、ここへ登ることは、どうも背中が気になるもので…。

私が在校しましたのは、戦時中でありまして、裏にありませんブルは、われわれが肉体労働で作った遺産です。ブルの緑のコンクリートをかためるのに、かようにしやがみこんで板でパタンパタンたたいて固めたものです。あの当時はみんなやせこけておりました。

私の同期に三木さんの秘書官をつとめた男がおりまして、いろいろ前総理の話などを聴くのですが、かのランブイエ会談は大変だったようで……その当時英国の新聞かなにかに各国首脳の似顔漫画が載っておりました。他の首脳たちが鼻をつきあわせて談笑しているのに、わが三木サンは一人ボツンと離れ、ムツリと真面目な顔に描かれておりました。言葉の問題もあるのですが、とかく日本人は、かように生真面目で、笑いとぼしく、ユーモアやジョークを解しない人種に見られているようです。ユーモアを外人並みにとぼせたのは吉田さんぐらいだったと申します。なぜ日本人はユーモアに乏しいのでしょうか。元来わが民族の体質は、神話や伝承のおおらかなユーモアや機知に見られるように、諧謔を喜び生活に笑いの充ちた性格だったと思うのです。それが現在のようなくそ真面目な、ジョークに乏しい人間に変わったのでしょうか。一つには仏教思想の伝来、つまり、ワビとかサビとかいった情緒を尊ぶことが、笑いを軽視し、抑圧する風潮を生んだということが云えます。もう一つは武士政治による階級差別の問題です。

滑稽の本質は、諷刺や嘲笑にある。つまり狂歌や喜劇、草双紙などに見られる内容には、多分に政治体制や風俗などを批判的にからませたものが多かったのです。しかしこういった庶民の武器は、武士階級の差別的な弾圧によって、きびしい規制のもとに押えられて行ったのです。これはさきほどのワビやサビを尊ぶ気風や、禪の精神などが武士に尊ばれたこととつながります。この風潮が延々何百年も、そして武士に替った軍閥によって、つい30年前まで、引き継がれて行ったのです。

こうして日本人は笑いの本質を忘れ、話術の面白さを忘れ、ただ絶叫したり沈黙するだけの民族になってしまいました。日本人が海外でコロニーを作りたいがるのも、こういった性格が外国人に敬遠されることが一つの理由かもしれせん。今日、日本人の国際的なおつき合いには語学は無論のこと、話術の根本的な訓練、ジョークやユーモアに充ちた話術の勉強が必要なのです。

私が最近お会いしたある大会社の社長は、ご自分でも趣味として漫画を読み、社員にも漫画を読ませ(ただ、劇画は敬遠するとのことでした)漫画からユーモアを学ぼうとしているのだとのことでした。手前味噌な話になり恐縮ですが、ヤング諸君の間に、漫画やコントが流行し、漫画世代と皮肉られている時勢ではありますが、反面、そういったものと日頃接することによって、新しい性格を持った日本人が生まれてくるかもしれないという、ほのかな期待を、わたしは持っているのです。(笑旨)

人気かつさらった即席漫画

藤田栄隆氏 (47期) 遺稿

昭和51年度総会で上映されたアニメーション映画「ある街角の物語」は、手塚治虫氏 (S20) の作品で、さる昭和38年の「80周年式典」にもフェスティバルホールで上映されたものだが、芸術祭奨励賞、ブルーリボン賞、毎日映画コンクール賞など数々の賞をとっており、なんど見ても深い感銘を受ける「夢とロマンときびしい社会批判のある」気骨に富んだ作品で、会場からの拍手が鳴りもやまなかった。唯、フィルム配送時の手違いから、しめくりの第4巻が脱けたため、一番大切な終末部が欠けたことに対し、手塚会員もひどく残念がっていた。

ところでこの日は手塚会員も、映画上映に先立ち、得意の漫画を駆使して氏特有のウィットのある卓話をぶつため、急遽東京から飛行機で馳せ参じ、軽妙なジョークとアイロニーをまじえながら、サラサラと6枚の絵をかきあげ、参会者を唸らせたが、中でも三木首相(当時)の渋い顔にまつわる世界の評判などタイムリーなお話は、そのあまりにも感じの出た似顔絵と相俟って、やんやの喝采を浴びた。さて、この6枚の絵については、会終了後女性会員から是非譲ってほしいとの希望が殺到し、役員たちを困らせた。

51年総会に当り御協力いただいた方

阪急フラワージュップ(65期大津晴久氏)より総会場大花瓶の花及び各控室の盛花を寄付していただきました。

又、高松組(68期 高松孝之氏)からは宴会場壁の紅白の幕を飾っていただきました。謹んで御礼申し上げます。



甲子園組員録勝ち 7-3 職員チームの 善戦及ばず

職員 1 0 1 0 1 0 0 - 3
 OB 1 2 1 0 1 2 x - 7
 一番ショート水谷君——というのと、20数年前の甲子園球場を思い出す。当日集ったセンバツ出場組は、23年初出場当時のキャプテン水谷から27年出場時の補欠平野まで10数名、平均年齢44歳。それに戦後野球部復活時の投手鈴木(現奥村組副社長)も加わって、「昔の光」を再現しようと大張り切り。メンバーもなるべく現役時代のポジションでやろうとスターティングメンバーは次の通り。
 ()内は甲子園出場年度。
 監督は、いまも現役の清水監督。

| | | |
|-------|-------------------|----------|
| 6 5 | 7 8 2 1 4 9 3 | |
| 水田 田 | 長山品市市田 | 三伊平 |
| 谷 海 | 川本川村石中木 | 川藤野 |
| 23 24 | 23 23 23 24 23 27 | 24 27 27 |
| 25 | 24 24 24 23 24 | |

現役OBを通じて不動の4番を誇る山本弁遷士は、相変わらず硬球のバットを振り回すという張り切りぶり。バッテリーだけが違って、市村一品川。市村は多湖の存在で投手にならなかったという快腕の持主だから、いまも、スーツとコントロールよく球をさばく。器用な品川は生徒時代と打って変わって口やかましくなっているので捕手には適任……バックは黄金の内外野。とくに優秀選手賞に輝いた、セカンド市石、レフト長谷川が光る。
 対する職員チームのメンバーは

| |
|---|
| 8 5 1 6 3 2 7 4 9 |
| 松 菊 今 野 水 福 稲 上 河 伏 田 岡 |
| 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 |
| 下 川 西 村 落 田 葉 原 原 谷 上 田 |
| (体 数) (事 体) (社 体) (英 英) (英 国) (生) |

六稜ラガー、ラグビー紅白試合

昭和51年11月3日(水・祝)午後1時KO、晴、グラウンド良好、於北野高校グラウンド、20分ハーフ、先戦一新制高校組
 レフラー 但馬達(79期)→(交替)→野々村博(部長)
 旧制中学組 34(14-4・20-14) 18 新制高校組(メンバー)

| 【旧制中学組】 | | 【新制高校組】 | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|------------------------|------------|---|
| 日高 成(60期) | FW | 岡本 崇夫(66期) | [交替] | | |
| 名和 成介(57期) | | 前川 幸作(67期) | | | |
| 早田 幹夫(55期) | | 伊藤 憲夫(74期) | | | |
| 朝比奈鈴三(59期) | | 小玉 康雄(72期)→岡本文雄(77期) | | | |
| 桔梗谷 良(60期) | | 向井 俊邦(70期)→岡本貴義(77期) | | | |
| 白小路良郎(61期) | | 川口 順弘(66期) | | | |
| 比山 實二(63期) | | 自見 弘之(70期) | | | |
| 上島 克之(64期) | | 小林 健治(70期) | | | |
| 【交替】 下平 嘉昭(61期) | | HB | | 下平 嘉信(67期) | 記 |
| 富士祐輔(60期)→権野 泰弘(53期) | | | | 三好 郁朗(70期) | |
| 三吉 忠彦(64期) | 三谷 忠信(66期) | | | | |
| 青山 政雄(59期) | 社頭 弘二(65期)→小玉 雄(72期) | | | | |
| 但馬 達(79期)→野々村 博(部長) | TB | 熊谷 道彦(74期) | T E L 0720-31-4402 自宅) | | |
| 樺井 盛蔵(64期) | | 永田 惠一(69期)→郡田和彦(70期) | | | |
| 嶋田飯面(68期)→高上 祐輔(60期) | FB | 岩崎 良和(66期)→東海林徹(70期) | | | |

特に、体操の稲葉先生は唯一の大正組。「若いやつらに……」と、元気ハツラツ。

職員野球チームは、そのあたりの草野球と一味ちがう洗練された選手ぞろいで、OB軍も果して昔のような華々しきゲームが展開できるかどうかと、戦前の予想は、全く職員側に六分の利であった。とくに投手は若手の高校野球経験者である今西君、キャプテンの菊川先生は阪神の揚布の軟式版といわれる無類の巧者……以下自他の名選手ぞろいで、プレーボールと同時に、たちまち一点を先取された。ようやくその裏一点をかえしたが、前半4-2と白熱戦……しかし後半になって、「昔の光」をのぞかせはじめた甲子園組が長谷川のライナー性ホームランを含めて計7点をあげ、7-3の実力というより黄緑勝ちと相成った。

総会のあと、両軍、夜の痛飲ゲームに移ったが、この方はどうやら職員チームの圧勝に終って和気あいあいの親善試合の幕。

さて本年度は、職員チームからユニフォームを贈りつけての挑戦状がすでに甲子園組に対して出されており、その結果はやがて衆目の見るところとなるはずである。

組分けは、二・三異なりませんが、大凡64期生以前の旧制中学入学者のチーム(43才以上)と65期生以後の新制高校入学者で30才以上の者のチームとに分けてゲームを行い、年寄組がキャリアの差で若手組を制しました。

(63期 比山實二 記
 T E L 0720-31-4402 自宅)

年会費をお忘れなく!!

昨年度から徴収をはじめました年会費のおかげで、事業が非常にやりやすくなったほか、今後の名簿の発行も楽になり、基金会計もふくらんで、近い将来「六稜クラブ」の開設さへ夢ではなくなりそうになってきました。そんなわけですから、是非とも同封の振替用紙で折り返し年会費をご納入下さい。あとからと置いておくと忘れやすから今すぐ。 会費は年1,000円です。

年会費 1,000円
 寄附金 1,000円
 プラスα

同封の振替用紙で併せてご納入下さい。(振替・大阪68025六稜同窓会)
 なお、今回に限り、母校新体育館建築資金の一部に充てるため、一口 1,000円 の御寄附を賜わりたく存じます。

会 務 報 告

第1回 常任理事会

S 52. 3. 25(金) 堂ビル清交社
 出席常任理事 田村・藤田・緒方・大
 山・奥田・楢崎・日高・丸野
 学校側理事 佐々木・佐賀・阪田
新年度諸行事に関する件
 昭和53年に予定されていた105周年記
 念行事は現下の経済状態や時期(100
 周年とのインターバル)などの点から
 実施困難と思われるので110周年にこ
 れをゆずり、ことしはその準備を行わ
 ない。また名簿発行の方も広告料収入
 が期待できず1冊あたり送料も含め4
 ,500円を越す公算が大であるのでこれ
 も110周年のときにゆずることとする
 が名簿原簿の整備だけはしておきたい
 ので各年度の理事に依頼し協力を求める。
 昭和52年度総会は11月3日に母校で行
 なうこととし、企画は改めて協議する。
 会報はより充実したものを発行する。
 東京六校会20周年に対する記念品の件
 20年啓動者森八郎氏に対し岡島先生か
 ら絵を贈られるについて本部からも何
 分の助成をする。また参会者全員に本
 部から六校魂の手拭を贈る。

常任理事増員の件

昨年非常に本会のため尽力された山本
 次郎氏を常任理事とすることについて
 理事会の承認を求める。

第2回 常任理事会

日時 S 52. 7. 1(金) 6時～8時
 場所 北野高校校長室 出席者15名
議事

1. 田村常任理事代表挨拶、藤田栄隆
 常任理事の逝去の件報告
2. 藤田氏に代わる会報担当者に山本
 次郎氏(S 25卒)推薦
3. S 30年以降の常任理事の増員の件
 梶本興重氏(S 36卒)を推薦
4. 総会の件、11月3日母校で開催す
 る。運動場で野球・ラグビー・庭球
 バレーを行ない楢崎・日高・笠城が

担当し、実行委員会を組織する。

5. 次の理事会を7月26～28日の間に
 開催する。
6. 東京同窓会長に玉置敬三氏が就任
 され、従って玉置氏は本部副会長と
 なられ、前田和二郎氏は本部顧問と
 なられた。

第3回 常任理事会

日時 S 52. 7. 19(火)
 場所 北野高校校長室 出席者11名

1. 会務報告
2. 会計報告
3. 決算、予算報告
4. 27日の理事会の件
 - (1). 会務報告 ———— 田村
 - (2). 決算、予算 ———— 緒方
 - (3). 常任理事補充 ———— 田村
 - (4). 事業計画
 総合—緒方、会報—山本、名簿—
 奥田
 - (5). 梅林の件 ———— 田村

昭和52年度 第1回理事会

昭和52年7月27日(水)
 於 清交社 午後6時～8時
 出席者 32名
 司会・田村常任理事

1. 会務報告(田村)
 5月6日会計監査・各理事に会計報
 告書を郵送。3月・7月(2回)に常
 任理事会を3回開催。
2. 会計報告(緒方)
 (決算・予算)別紙により説明。
3. 常任理事補充の件(田村)
 藤田常任理事急死に伴い会報担当
 者の補充が必要となった。又この折
 に若い30年以降の常任理事を増員し
 たい。候補として昭和25年の山本次
 郎君・36年の梶本興重君を推薦した
 い。又東京六校会長に玉置敬三氏が
 就任。規定により、本会副会長に、
 前東京六校会長前田和二郎氏が、本
 会顧問になりました。

4. 事業計画

○総会(緒方)

日時は11月3日、場所は学校。ほぼ
 去年同様の恰好になるが、運動部の
 試合にバレーボールなどをも加える。
 去年の総会における手塚氏の映画に
 あたるものについては未定。よい知
 恵があれば早急にお知らせ下さい。
 体育館でパーティ、料理もほぼ去年
 並。手拭いは色を変えて用意する。
 講堂内には卒業生作品を展示する。

○会報(山本)

11月3日の勧誘が主眼。9月20日発
 送めど。9月中に必着。随想を入れ、
 人心の交流をはかる。

○名簿(奥田)

広告収入で発行するたてまえである
 ので、現在の不景気な社会情勢を考
 えると、発行を110周年に延ばさざ
 るを得ないと判断した。訂正名簿の
 発行も大部のものとなるので同じく
 発行は困難である。各期で各期の名
 簿を作り、毎年学校へ送り、学校に
 は各期全部の名簿がそろっていると
 いうような状態にしたい。会報発送
 にも関係するのでその時期を毎年6
 月末日としたい。

5. その他(田村)

現在学校では体育館の新築工事が始
 められているが、それについて1口
 千円の寄付をお願いしたい。年会費
 の振込用紙に印刷して全会員に配布
 したい。
 尚、毎年梅林に補植していきたいと
 思っている。

以上のすべての案件は理事会によって
 承認されましたのでご報告申し上げます。

六校同窓会役員就任

| | |
|------|----------------------|
| 副会長 | 玉置 敬三 (T14) |
| 顧問 | 前田和二郎 (M45) |
| 常任理事 | 山本 次郎 (S25) |
| 同 | 梶本 興重 (S36) |
| 理 事 | 寺井あかね (S44、母校 教員) |
| 同 | 白石 俊己 (S52) |
| 同 | 松島 佳子 (S52) |

“ネエ、みんな大きくなったら何になる?”

子供は果しない夢を見ている
 それかやがて、新しい時代を築く確かな
 ものへひろがってゆくのです
 21世紀につながるこの子たちを、
 暖かく伸びやかに
 育ててゆくこと、
 そのために東洋紡も
 お役にたちたいと
 考えています。



会 計 報 告

六稜同窓会 昭和51年度会計報告及び昭和52年度予算

昭和51年度一般会計報告

昭和52年度一般会計予算

| 科 目 | 51年度予算 | 51年度決算 | 増 減 | 52年度予算 | 備 考 |
|-------------|-----------|------------|-----------|------------|----------------------------------|
| 収 入 | 円 | 円 | 円 | 円 | |
| 入 会 費 | 675,000 | *1 677,500 | 2,500 | 682,000 | 1364人×500円 |
| 利 息 | 100,000 | 36,503 | ▲ 63,497 | 30,000 | |
| 雑 収 入 | 2,000 | *2 10,000 | 8,000 | 5,000 | |
| 前年度繰越金 | 1,252,938 | 1,252,938 | 0 | 614,557 | |
| 計 | 2,029,938 | 1,976,941 | ▲ 52,997 | 1,331,557 | |
| 支 出 | | | | | |
| 人 件 費 | 10,000 | 0 | 10,000 | 10,000 | |
| 通信・事務費 | 250,000 | 56,680 | 193,320 | 100,000 | |
| 会 議 費 | 150,000 | 168,645 | ▲ 18,645 | 200,000 | |
| 会 費 振 助 費 | 200,000 | *3 200,000 | 0 | *3 100,000 | |
| 運 送 ・ 交 通 費 | 100,000 | 17,350 | 82,650 | 30,000 | |
| 旅 費 | 0 | 72,764 | ▲ 72,764 | 240,000 | 東京六棒会 6人×40,000円 学校側 3人、常理 3人 |
| 慶 弔 費 | 100,000 | 67,945 | 32,055 | 100,000 | |
| 記 念 品 料 | 150,000 | 189,000 | ▲ 39,000 | 100,000 | |
| 奉 還 祝 金 | 100,000 | 90,000 | 10,000 | 100,000 | |
| 名 簿 引 当 金 | 200,000 | *4 200,000 | 0 | 200,000 | |
| 雑 費 | 10,000 | 0 | 10,000 | 10,000 | |
| 予 備 費 | 759,938 | *5 300,000 | 459,938 | 141,557 | |
| 計 | 2,029,938 | 1,362,384 | ▲ 667,554 | 1,331,557 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 614,557 | 614,557 | 0 | |

- *1 1355人×500円
- *2 第52回本より
- *3 特別会計へ
- *4 名簿積立金会計へ
- *5 会報郵送料補助金として特別会計へ

昭和51年度特別会計報告

昭和52年度特別会計予算

| 科 目 | 51年度予算 | 51年度決算 | 増 減 | 52年度予算 | 備 考 |
|-----------|-----------|--------------|-----------|-----------|-----|
| 収 入 | 円 | 円 | 円 | 円 | |
| 年 会 費 | 2,000,000 | 2,691,000 | 691,000 | 2,500,000 | |
| 臨 時 会 費 | 200,000 | 784,000 | 584,000 | 500,000 | |
| 広 告 収 入 | 795,000 | 497,500 | ▲ 297,500 | 500,900 | |
| 名 簿 光 上 | 48,000 | 46,800 | ▲ 1,200 | 36,000 | |
| 利 息 収 入 | 50,000 | 15,065 | ▲ 34,935 | 15,000 | |
| 雑 収 入 | 10,000 | 10,000 | 0 | 5,000 | |
| 一般会計より繰入金 | 0 | 500,000 | 500,000 | 100,000 | |
| 前年度繰越金 | 2,551,978 | 2,551,978 | 0 | 1,018,839 | |
| 計 | 5,654,978 | 7,096,343 | 1,441,365 | 4,674,839 | |
| 支 出 | | | | | |
| 会 報 発 行 費 | 1,000,000 | 993,000 | 7,000 | 1,200,000 | |
| 会 報 送 送 費 | 750,000 | 835,030 | ▲ 85,030 | 900,000 | |
| 総 会 費 | 400,000 | *6 1,122,010 | ▲ 722,010 | 1,200,000 | |
| 人 件 費 | 30,000 | 80,000 | ▲ 50,000 | 100,000 | |
| 事 務 費 | 30,000 | 5,050 | 24,950 | 15,000 | |
| 振 替 手 数 料 | 70,000 | 92,414 | ▲ 22,414 | 100,000 | |
| 雑 費 | 10,000 | 0 | 10,000 | 10,000 | |
| 名 簿 引 当 金 | 1,000,000 | *7 1,000,000 | 0 | 500,000 | |
| 基 金 繰 入 金 | 1,000,000 | 1,950,000 | ▲ 950,000 | 500,000 | |
| 予 備 費 | 1,384,978 | 0 | 1,384,978 | 149,839 | |
| 計 | 5,654,978 | 6,077,504 | ▲ 422,526 | 4,674,839 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 1,018,839 | 1,018,839 | 0 | |

- *6 総会費の内訳
講演費 60,000円
会場設営費 250,000
食堂支払 520,000
弁 当 159,500
人 件 費 37,000
記 念 品 料 44,000
通 信 費 11,940
雑 費 39,570
計 1,122,010

- *7 名簿積立金会計へ

昭和51年度基金会計報告

昭和51年度名簿積立金会計報告

| 科 目 | 51年度決算 | 備 考 | 科 目 | 51年度決算 | 備 考 |
|--------|------------|-----------------|--------|-----------|-----|
| 収 入 | 円 | | 収 入 | 円 | |
| 前年度繰越金 | 8,985,694 | 金銭託託(大和銀行) | 一般会計より | 200,000 | |
| 利 息 | 745,378 | | 特別会計より | 1,000,000 | |
| 新規積立金 | 950,000 | 同 上 昭和50年度年会費より | 計 | 1,200,000 | |
| 利 息 | 61,984 | | 支 出 | 0 | |
| 新規積立金 | 1,000,000 | 同 上 昭和51年度年会費より | 次年度繰越金 | 1,200,000 | |
| 計 | 11,743,056 | | | | |
| 支 出 | 0 | | | | |
| 次年度繰越金 | 11,743,056 | | | | |

以上の通り六稜同窓会の昭和51年度会計報告を致します。 昭和52年 5月 6日

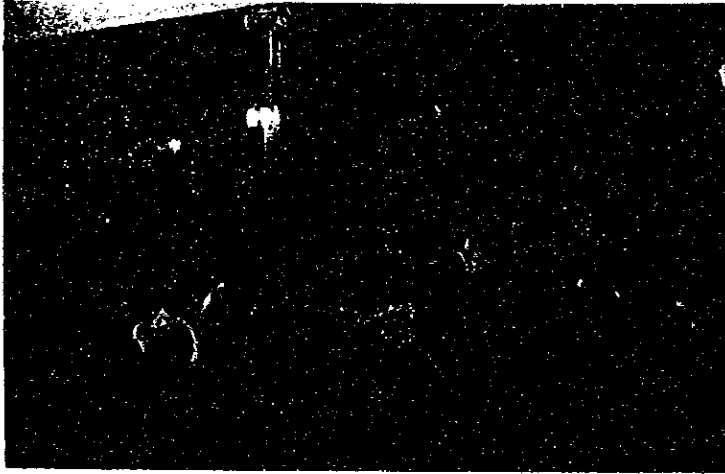
六稜同窓会長 河崎 邦 夫

昭和51年度会計報告の正確なことを認めます。

昭和52年 5月 6日

六稜同窓会監事 谷 口 幸 三
同 上 滝 井 尚 三

東京六稜会第20回記念総会 盛会裡に終る



東京六稜会第20回記念総会が恒例の如く日本工業倶楽部にて6月8日(水)午後6時より盛大に開催された。

20回総会にふさわしく、350名の会員が参加され、老若とわずに、全員が青春の一時代に戻っての数時間を満喫された。6時間会にもかかわらず、5時頃より来会される方が多く、準備整わない委員連を周章さす一幕があった。総会は、前田和二郎会長挨拶に続き、当日のメイン・イベントである東京六稜会皆勤、精勤者に対する記念品の贈呈にうつった。

東京六稜会が20回を数えるまでに発展してきたのは、歴代の幹事諸氏が、自己の職業に従事しながら、貴重な労力と時間を同窓会に奉仕して、会の運営に努めてきたことによるものである。

そうではあるが、幹事諸氏をして、熱情を以て奉仕にかりたてるものは、毎回熱心に参会される会員諸氏の出席である。会員諸氏の熱心なる参加、年

々数の多くなってくる会員諸氏の出席こそが、東京六稜会の20回を招いた主因であるとの観点から、会員への皆勤、精勤の記念品の贈呈となった訳である。幹事役の方々の中に、皆勤、精勤の方が居られるのであるが、上記の趣旨によって、記念品の受領は御遠慮を願った。

皆勤賞を受領された方は、昭和5年御卒業、慶応義塾大学教授の森 八郎氏。精勤賞については、詳細なる記録が事務局に残っていないので、一応、出欠の返答の、はがきに申告していただくことをベースにして、卒業年次のお古い順にさめさせていた。

皆勤賞は恩師岡島吉郎先生の画くところの北野の旧校舎の油絵。精勤賞は、手塚治虫氏の漫画色紙。御両氏の心からの御好意を頂いたことを、更めて紙上を借りて御礼申し上げたい。手塚氏の色紙は、彩色美しく、恐らく大変な時間を費やされたであろう力作10枚を

御寄付頂いた。色紙は次の10氏に精勤賞として、お受け取り頂いた。

| | |
|--------|---------|
| 岸本 亮氏 | 大正3年御卒業 |
| 中谷 孫一氏 | ◇ 15年 ◇ |
| 青山 祐一氏 | 昭和3年 ◇ |
| 森内 昌彦氏 | ◇ 5年 ◇ |
| 菅 邦夫氏 | ◇ ◇ ◇ |
| 弓削 隆一氏 | ◇ 6年 ◇ |
| 浅岡 三郎氏 | ◇ ◇ ◇ |
| 中塚 一 氏 | ◇ ◇ ◇ |
| 上村 五郎氏 | ◇ 10年 ◇ |
| 北村誠三郎氏 | ◇ ◇ ◇ |

総会の次第として、次に会則の変更と東京六稜会の新会長の件を会員におはかりした。即ち、前田和二郎会長より総会20回を機として、東京六稜会々長をご勇退なさる旨のお申し出がありましたので、総会でご承認の上顧問にご就任いただくよう、会則の変更のご承認を願った。現行の会則第3条「本会に次の役員を置く。役員任期は2ヶ年とする。の次に「また顧問を置くことができる。をそう入することを満場一致でご承認願ひ、前田会長には顧問にご就任いただいた。

この間の趣旨の説明には、高垣常任幹事があたられたが、東京六稜会の新会長には、38期の東芝会長 玉置敬三氏にご就任をお願いすることの提案があり、満場の拍手の轟くなかで、総会に於ける新会長のご承認がえられた。

続いて新会長のご挨拶、新会長より前会長への感謝の記念品贈呈が行われた。玉置新会長よりは、20回にも発展してきた東京六稜会のますます繁栄してゆくよう会長として努めたい旨のご発言があり、また記念品贈呈にあたって、前会長のこれまでの御苦勞に深く感謝の意を表明されたのであった。前田前会長より感謝の答辞があった。

大山常任幹事より決算報告及び事務報告があったあと、大阪よりわざわざご上京いただいた六稜同窓会名誉会長、泉母校々長のご挨拶。同窓会代表として、田村常任理事のご挨拶に引続いて、祝電の披露があった。



株式会社 鴻池組

取締役社長 鴻池 藤 一

大阪府知事 黒田一氏、衆議院議員 中馬弘毅氏から、また東京六校会創設の頃幹事として活躍になった十六銀行の亀山専務から、それぞれ総会の盛会を祝し、今後のますますの発展を祈る旨の祝電を頂戴した。

最後に、此度の20回総会に際して、油絵数点のご寄付をいただく等、物心両面に多大のご配慮を願った恩師 岡島吉郎先生に、東京六校会として、感謝の意を表すべく、玉置新会長より感謝状及び記念品の贈呈があり、岡島先生よりは、先生の画伯らしい詩情あるやさしい答辞があつて、総会は終了した。

記念總會というこもあつて、日本工業倶楽部の講堂での総会であつたが、懇親祝賀パーティは席を移しての三階宴会場で行われた。なにせ 350人という参加者のため、宴会場は特に立錐の余地なし。スナップ写真で、当日の様子をご想像下さい。また昨年の例に勉強した幹事は、宴会のメニューにも趣向をこらし、今年は大人数の割には、充分に、ご馳走も廻るようになった筈。アサヒビールも大奮発して、皆様にご心ゆくまで味って頂いた。

多忙のスケジュールを調整して出席いただいた森繁久彌氏の歌と楽団のメロデーに、シビれた会員も多数居られた筈。とにかく、会が終つたあと、会員の方から幹事のところに届けられた「会は大成功であつた。幹事のご苦労有難う」というメッセージは例年になく多数あり、幹事としてホッとすばかりでなく、会が成功裡に終つたことが確認されて、自祝する次第であります。

懇親会の余興として、岡島先生の油絵、手塚治虫氏の色紙それぞれ一点ずつの抽せんもあつた。森繁さん及び昭和50年卒の年度幹事松島みどりさんによって、抽せん番号の決定を行つていただいた。

森繁さん、有難うございます。お陰様で、東京六校会第20回総会の懇親会は本当に、楽しく、約2時間を過ごすことができました。

恒例の新人紹介は、松島さんによって紹介され、昭和48年卒の幹事、小谷君のリードによって、新人にエールを送つたあと、小谷君の指揮によって、校歌の大合唱を行い、散会したのが、かれこれ九時近くになっておりました。

総会が、盛会に終つたことに就いて、関係各位のご協力、ご支援に厚く御礼申し上げます。

なお、出席者全員に六校同窓会寄贈による六校魂の手拭が配布されたことも附記致します。

また、前田和三郎、玉置敬三、高垣仔二郎、北村誠三郎氏より多額のご寄付をいただいたことを、幹事としてご報告しておきます。

東京六校会員名簿発行される

東京六校会の20回総会の記念行事として、かねて準備の進められていた会員名簿が発行され、総会当日の出席の会員には配布されました。また、東京六校会の会費を納入された会員にも、ご要望があれば、お送りしております。

会員名簿は、59期の竹井泰二氏の編集責任の下、多くの幹事諸氏のご労力の提供によって出来上りました。特に、高1期の中野博之君のデザインによって、立派に装丁されたものになりました。頁数は102頁、緑色会員数、明治34年卒より昭和51年卒まで約1,700名。

多くの会員のご寄付によって出来たものであります。残部が若干ありますので、ご入用の方は、東京六校会費1,000円と名簿送料実費300円計1,300円をお送り下さい。東京六校会員以外の方は、送料費300円をお送り下さい、ご送付申し上げます。

東京六校会事務局

〒154 東京都世田谷区若林3-6-18

大山利雄内

電話 03-421-0693

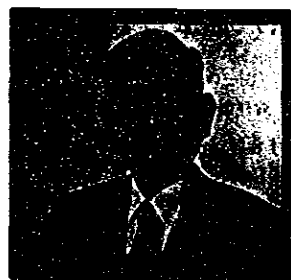
職場の電話 03-356-4087

野村コンピュータシステム(株)

常務取締役 大山利雄

郵便振替口座番号 東京・8-58722

東京六校会



常任理事

藤田榮隆君を悼む

田村博孝(47期)

昭和52年6月15日、彼はわずか2時間の患いで、忽然として逝つた。六校同窓会の常任理事として、かけがえない人物を失つて了つた。人の世の定めとは言いながら人生の無情をひしひしと感じさせられ海に痛恨哀惜の極みである。

六校会報の編集責任者としてだけでなく同窓会運営に対する彼の持論は常に何れにも偏しない中庸であつた。そして何事にも筋を一本通す人であつた。

彼とは中学時代同期生として共に学んだが当時から誠実で飾り気がなくどちらかと言へば目立たない存在であつたが仲々の秀才であつた。特に文学的才能は抜群で得米斯の道を選ぶのではないかとさへ思はれていたが大方の予想を裏切つて医学の道に進んで行つた。多数の同窓生の中には彼を評して方針を誤つたのではないかと、いつまでも冷やかしていたが流石に医学に於ても整形外科の大家となつた。

長らく赤十字病院の副院長であつたが数年前から大阪府立整肢学園の園長として身体不自由児童の為に献身的な努力を続けていた。

葬送の日、沢山の身体不自由児に囲まれた彼の遺影は明るく尊くいつまでも忘れられない。御冥福と御遺族の御多幸を祈る次第である。

常駐・保安・機械警備…… 従業員1,700人

朝日警備株式会社

取締役社長 本郷康基(51回生)

本社 大阪市都島区片町2-2-40大発ビル TEL 353-2461(代)
支社・営業所 東京・名古屋・大阪・神戸・広島・福岡

東京六校会満19年の 歩みを……

常任幹事 高塚千二郎 (39回)

6月8日(水)午後6時、日本工業倶楽部に於て第20回記念総会が開かれたが、大山常任幹事より別稿を以て詳細な報告があるので、私はその創立と経過を顧み度いと思う。

昭和32年の春頃、亀山仁郎氏(47回、当時十六銀行東京支店長)を中心として松村一馬(38回)吉田益雄氏(49回)片岡 誠氏(50回)根岸 要氏(51回)の諸君が、横の線である同期生会も良いが、縦の線、即ち、明治、大正の古き先輩から、毎年卒業して来る新入会員に至る迄を網羅する在京会員に依る同窓の会を持つてはどうかと云うことで、亀山氏の処で度々会合がもたれた。会を作る以上はシャッポが必要だと云うので、古き先輩の中で白羽の矢を立てたのが、当時アサヒビールの社長であった山本為三郎氏(25回)であった。そこで以上の諸君が山本さんに面会、お願した処、同窓会に関係すると、寄附と就職の斡旋を頼まれるのがオチで、私は受けないと再三の要請にも拘らず、仲々承諾が取付けられないと云うことで、松村氏より私に呼出しがかかった。松村氏の話では、大体の目安はついたが、肝腎の山本さんが承諾してくれないので、何とか云って貰う手はないかとのことであつた。私は何とか考えてみると答えて、当時朝日新聞東京本社経済部長の弟に相談してみたら、自分は若い記者時代から山本さんをよく知って居るので、私の名前を出してみたらとのチエを授けた。そこで、私達一同揃って、山本さんに面会したら、あゝ、そうかと云うことで、早速会長就任のご快諾を得た。但し、山本さんの最も嫌いな寄附と就職の斡旋等会長への要請に付いては一切私が責任を以て処理することを確約して納得して貰った。

本来ならば六校同窓会東京支部と云うべき処だろうが、当時の六校同窓会

理事諸公と学校側とうまくなく、少しも纏っていないようなので、この際、大阪を刺激してしっかりしたものにするためには、独立体の方がよいと、山本会長と私達幹事の意見が偶々一致したので、東京六校会と命名、会長に山本為三郎氏推薦と云うことで、創立総会を昭和33年5月23日新東京グリル(産経会館)に於て開催、ここに東京六校会は芽出度く呱呱の声を挙げたのである。

当日の出席者約 100名余(呼びかけた者、約 500名)最初にしてはよく集った方だろう。

次に、今日に至る迄の経過を辿ってみることにしたい。

第1回 33. 5. 23 新東京グリル

第2回 34. 5. 13 *

(34. 8. 6 アサヒビ

ール吾妻橋工場屋上にてピ

ャーパーティ)

第3回 35. 5. 13 光 輪 閣

第4回 36. 5. 13 *

第5回 37. 6. 6 新設されたア

サヒビール大森工場

第6回 38. 5. 17 日本工業倶楽

部

第7回 39. 5. 22 光 輪 閣

第8回 40. 5 *

第9回 41. 5 *

第10回 42. 5. 30 日本工業倶楽

部

第11回 43. 5 光 輪 閣

第12回 44. 6. 5 *

第13回 45. 6. 4 *

第14回 46. 4. 27 *

光輪閣は高松宮邸がこの秋から改築されることになり、この年で終ることになった。

第15回 47. 6. 8 日本工業倶楽

部

第16回 48. 4. 25 *

六校同窓会 100周年記念総会の前

夜祭として盛大にやった。

第17回 49. 6. 14 日本工業倶楽

部

第18回 50. 6. 6 *

第19回 51. 6. 4 *

第20回 52. 6. 8 *

第20回記念総会として盛大にやった。その間会員名簿を5回に亘って発行している。

尚、会場は何れも一流の場所であつて、これは一に40年春物故された山本会長の願に依るものである。殊に、光輪閣は高松宮様の広い庭園での野外パーティは他に見られない立派なものであつた。

次に、会長であるが、

初代会長 山本為三郎氏 アサヒビ

ール社長 (25回)

33年より39年に至る7回

第2代会長 八木秀次氏 (16回)

日本学士院会員

昭和31年文化勲章受

賞

八木アンテナ発明者

40年 1回

第3代会長 前田和三郎氏 (25回)

慶応義塾大学名誉教

授 横綱審議会委員

41年より52年 12回

第4代会長 玉置敏三氏 (38回)

元通産省事務次官

(現在)東芝取締役会長

52. 6. 8 第20回記念総会に

て会長に選任さる

以上が創立当初より現在に至る経過でその間、出席者数の増減はあるものの本質的には変ることもなく、年々新会員の増えると共に出席者数も増えて行くものと思う。

最後に、現況を報告して結びとしたい。

現在の会員総数(新名簿掲載者)

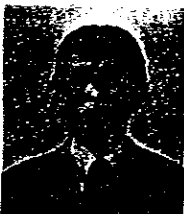
旧制中学の部 851

新制高校の部 797 合計1,648

今回の出席者数 351名

昨年に比べ、約倍近くの数に達し、会場の狭隘を感ずる有様であつた。

私は常々今年は20回と云う記念すべき年である。云うなれば、33年に生れた赤ん坊が成長して大学生になった年である。この子供の成長とその前途を祝福して、お祭り騒ぎをやらうではな



代表取締役

関野 修(57-58期)

謹啓 過去20数年杉本写真場の一員として母校の皆様の撮影に当って参りましたが、今回わが理想とする写真館経営の実現を目指して開業致しました。グライダー部の皆様には御通知済みですが、紙上を借りまして御挨拶申上ます。ミニスタジオではありますが何とぞ御利用下さい。

箕面市箕面5丁目12-9 0727(22)1577

7th Gen
S

いかと云うのが私の今年のモットーだった。この私達の心が通じたのであろうか、私がこの総会に参加しての初めての盛り上がりであり喜びであった。会って話した諸君一人一人が何となくお祭特有の興奮を味わい喜び楽しんでくれたように思う。私の同期の仲間がこんな楽しい会はなかったぞ、年の差を忘れる程楽しいものだったと、私達幹事の努力を讃えてくれた。私はこれ程嬉しいことはなかった。私達幹事の努力は酬われた。これで私は次の世代に大きな顔でパトタッチが出来ると思った。

今回の成功の要因は次の三つではないかと思う。

(1) 先ず、最初に挙げられるのは来賓として大阪より、泉名譽会長、河崎会長代理として田村博孝常任理事を始めとして緒方正美、丸野豊子両常任理事、学校側より佐賀、作野両理事と多数の方々が来られて、ご懇篤なるお祝辞と染め抜いた手拭 400本のご寄贈を頂いたこと、

(2) 何時もの事ながら、記念行事には森繁久弥氏とその楽団(今年はサクソフォンの名手安田 伸氏特別参加)が賑かに、而も格調高い演奏、尚且森繁氏の格別なるご奮闘を頂いたこと、

(3) 最後に忘れてならないことは、皆勤賞に自ら進んで貴重なご労作をご寄贈頂いた岡島吉郎先生のご恩情と忙しい最中を私の要請を快諾して、立派な色紙11点をご寄贈頂いた手塚治虫氏のご厚意である。

以上の方々に対し、この紙上を以て心から厚くお礼を申し上げます。

尚もう一言附記しておきたいのは、幹事の中にも皆勤者2名、精勤者多数居るのであるが、私は幹事諸君は会員に対する奉仕の精神を持った者、大げさな表現かも知れないが、先要後楽の精神に則って、賞を敢えて辞退して貰ったことと共に、幹事諸君が黙々と裏方の仕事をやってくれて居る。このスクラムを組んでのチームワークがあればこそ、この盛会をもたらした

のであることを会員諸君に知って貰いたいと思う。

この記念すべき総会に於て新会長として玉置敏三氏を迎えることが出来た。この新会長の下、心を新にして若き執行部を中心に躍進しようではないか。

(附記)

351名を年次別に分析してみた処次のような数字になった。ご参考になれば幸甚。

| | | | |
|-------|----|---------|----|
| 来賓 | 6 | 昭和30~39 | 65 |
| 明治 | 2 | 昭和40~49 | 25 |
| 大正 | 16 | 昭和50~51 | 19 |
| 昭和2~9 | 44 | 新入会員 | 10 |
| 10~19 | 75 | 女性会員 | 20 |
| 20~29 | 69 | | |

同窓会各期空席理事 補充のお願い!!

該当の学年は早く理事を決定の上本部までお知らせ下さい。60期までは男1名、61期より男1名女1名となっております。

明治41年まで

明治43・44・45

大正4・6・8・10・11

昭和12・14・16・20・27・31・32(女)

34・36(女)・37(女)・39・40・42・43

・44・46・47・49・50

六稜文庫

(昭和51年5月以降)

| | | | | | |
|--|------|------------------------------|---|----|----------|
| Ajlen J. Bard 著 松田好晴(S26卒) 小倉興太郎 | } 共訳 | 溶液内イオン平衡 (理論と計算) | 1 | 86 | S51.5.18 |
| S44卒 坂元ひろ子訳 | | 毛沢東「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」入門 | 1 | 87 | 51.10.23 |
| S19卒 藤田 邦昭 柴田 正昭 | | 都市再開発 | 1 | 88 | 51.11.1 |
| S7修 中 正敏 | | 夢の代金 詩集 | 1 | 89 | 同 |
| S8卒 河野広五郎 | | 日本改革の理想 | 1 | 90 | 同 |
| 同 河野 兼明 柴田 幸雄 | | さくら団地管理日誌抄 | 1 | 91 | 同 |
| T15卒 川瀬 勇 | | 栄養生理学概論 | 1 | 92 | 同 |
| S18修 西村 孟 | | 箸とフォーク | 1 | 93 | 51.11.24 |
| T9卒 藤中 博(編著) | | 代 数 | 1 | 94 | 51.12.10 |
| 旧職員(S29~35) 今中利春 | | 山の印象(全1冊) | 9 | 95 | 52.4.18 |
| T14卒 高垣仟二郎 | | 触媒反応 | 1 | 96 | 52.6.3 |
| | | (ケミカルエンジニアリング・シリーズ4) | | | |
| | | 「我がセンチメンタルの魂」 | 1 | 97 | 52.6.27 |
| | | (森繁久弥レコード2枚1組) | | | |

(註) 氏名は寄贈者名です。



指導目標(スリーS)

(1) 収益増大

(2) 成長発展

(3) 信用拡充

上野会計事務所(TEL 06-943-8411~2)

税理士 上野 弘之(昭35卒)

〒540 大阪市東区谷町3丁目31番地 松本ビル201号室

田中電工株式会社 小松電子株式会社

代表取締役社長 田中 睦(62期)

田中電工(株)

大阪市旭区高殿7丁目16番31号

TEL 06-951-1131(大代表)

小松電子(株)

石川県小松市安宅町甲135番地

TEL 0761-21-2000(代表)

随想

題字 阿部俊一先生

わが落第放校の記

渚田禎三 (51.52.53期 弁護士)

落第2回、卒業を前にして放校。こんな馬鹿げた記録をもつ者は、六歳百有余年の歴史のなかでも、おそらく三人とはいわないのではないか。1回、2回の落第はよく聞くが、皆、立派に卒業しておられる。

昭和8年3月27日、日本政府が、国際連盟脱退を内外に声明し、国中が気負い立った気分が湧きかえっている頃、私は憧れの北野中学へ入学した。創立50周年記念の年である。饒鬼大将が俄かに秀才気取りで、六歳の帽章に白線、肩から斜めに黒カバン、白ゲートルと当時としては何ともカッコいい晴姿で新築間もない十三の校舎に通った。

その年の10月、ときの陸軍参謀次長で後の関東軍司令官、植田謙吉将軍が講演のため母校にいられた。何をしゃべられたかは覚えてないが、廊下ですれちがったときの将軍の風貌は今も鮮やかである。優しい顔に澄んだ眼。私は立ちどまり、頭を下げるのも忘れ、吸い込まれるようなすがすがしい気持で将軍をみつめていた。この人が先生のいつも云ってた将軍か。2回も落第して、到頭卒業もせずに学校を去ったという人。それでも今は六歳の誇りや。この人やったら爆弾ぶつけられても慌てんかったやろ。あんな顔になりたいな。

将軍が行き過ぎた後、私は廊下に立ちつくし、そんなとりとめもないことを考えていたものである。まさかそれから2年もたたぬうちに、自分が将軍と同じ落第の運命を辿るようになるとは全く想いもよらぬことだった。

ところで最近、あらためて、「北野百年史」をひもといてみたところ、植田将軍が母校の落第生であったことは何処にも書いてないのである。逆に「本校第5回卒業」となっている。そんな馬鹿な話はない、それではこの俺は一体どうなると、何か仲間はずれにされたような変な気分です、私は「創立百周年六歳同窓会名簿」を丹念に調べ直してみた。が、第5回卒業生14名のなかには見当たらない。慌てて頁を繰っているうち、「第×回准会員」46名のなかに小さく植田謙吉の4文字が見つかった。いい年をして妙な話だが、近來、こんなに嬉しかったことはない。どうやらこれだ。私はまぎれもなく植田将軍の衣鉢を継いだことになるようだ。

2年生のとき、「学業成績考査内規要項」なるものが職員会議で決められた。その第7条に曰く、「各学期評点を加え3にて除したるものを以て学年評点とし、学年評点一学期40点未満又は各学科平均点60点未満のものは進級を許さず」又、第10条に曰く、「一学期間の欠席日数百日以上に及ぶ者の進級を認めず」

私は、この年、不幸にもこの出来たてモヤモヤの内規第10条に触れ、進級にストップがかかってしまった。つまり、慢性盲腸炎で再々欠席したあげく開腹手術、その後も故障続出で欠席日数百日を超える破目となったからである。将軍を夢みていた私は、将軍どころか先ず身体検査の段階で早々と落第を宣告された。それでも植田先輩のことを想い、気落ちする心に鞭打ちながら、先ずは何食わぬ顔で1年下の後輩のクラスへ出席したものである。家では勿論、新しいクラスでも、誰1人として私に落第生呼ばわりする者はいなかった。健康もどうやら回復し、何時の間にか自分が落第したことすら忘れるまでになった。私の六歳生活で、終生の友を得たのもこの時期だ。このまま順調にゆけば2度目の落第はしないで済んだのであるが、そうは間屋がおろさなかった。友達が増えるにつれて勉強よりも遊ぶ方が忙しくなって来たからである。

昭和12年7月7日、蘆溝橋事件。日中戦争勃発。日本の教育は戦時下教育へと大きく転換し、国民精神総動員、軍事教練、先生方の応召と落着かない時代となった。当時、私は甲子園から通学していたが、地元から同じ電車を通っている浪商や大商の連中から、メンを切ったの、生意気のと因縁をつけられ、大喧嘩をしたこともある。おかげで、この連中ともつきあいが出来、一寸した顔にはなったが、カバンの中には、いつも鉄棒に新聞紙を巻きつけたのをしのばせている始末。不良には硬派と軟派があるが、私はまさにいっぱしの硬派で、それも好きな女学生を見かけただけで赤面し胸苦しさを覚えるという変な硬派である。当時のクラス写真を見ると、まことにふてぶてしい面構えで、制服を少しくアミダにかぶり、傲然と胸を張っている。

私達が在学した頃は、各クラスで成績順に座席が決められていた。最後列窓際が級長で、以下順次横に席をとり段々と前にせり出す。私が北野に入学した当初は、たしか最後列の「かべつき」か、その前あたり陣取っていたはずだが、二度目の落第以後は次第に前進をはじめ、四年になる頃には遂に

最前列「かぶりつき」特等席の住人となってしまった。こうなると授業が面白くなくなるのが人情で、教科書などは読まなくなる。成績は最低で、持ちうけていたのは二度目の落第。今度は第7条にひっかかった訳だ。ただ會ての同級生、友人連を次々送り出す卒業式ばかりは、流石の私も複雑な心境だった。古い友は去って行き、席を並べるクラス仲間は弟か子供みたいな連中ばかり。つつい一人一人で考え込むことが多くなり、そのうち喧嘩もしなくなった。

河合栄治郎の学生シリーズを読み始めたのもこの頃だ。「学生と読書」のなかに出てくる学生必読の書なんぞというのも、随分と読み漁った。読んで考えたことを語り合う相手もないまま、古い学友にせつせと手紙を書き送る。巻紙に毛筆で友への手紙を書きながらこの頃が、実は人間とか人生を最も真剣に考え、見つめようとしていた時期だったと思う。ただし、教護連盟には3度ばかり掴まれた。甲子園駅前の喫茶店やら、映画館で、松竹座で「格子なき牢獄」というフランス映画を一人を見て、コリンヌ・リュシェールの眼差しに生臭い歎息を洩らしていたとき、突然現実に引き戻された。帽子とゲートルはカバンに隠して小脇に抱えていたのだが、到頭身元がぼれてしまった。そのうち、学校なんぞは馬鹿々々しくなる。登校しない日が続く。行き場がないので、私より先に放校処分になっていた古い友人の家で厄介になつたりもした。ところがこれも学校で発覚し、あげくの果て登校手帳なるものを持たされ、朝、何時何分家を出ましたと母が押印し、簿は担任の先生に何時何分下校の印をもらう仕儀と相成った。まさしく「格子なき牢獄」を地で行った訳で、この制度にはいささか閉口した。あれやこれや今から考え直してみると、やはりこの私が放校にならない訳はなかったように思う。

当時の「学則」には、こうあった。

左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ退学ヲ命ス。

- 一、性行不良ニシテ改換ノ見込ナシト認メタル者
- 二、学力劣等ニシテ成績ノ見込ナシト認メタル者
- 三、出欠常ナラサル者

そのどれに該当したのかは知らないが、昭和14年の暮も押し迫った或る日、私は教員室に呼び出され、担任の先生から職員会議で私の退学処分が決まったことを知らされた。別に驚きもしなかったが、子供心に考えた。よし、それならこっちから出て行こう、と。

その日、夜半までかかって、一枚の紙切れに「右の者、今般家業都合により退学致させ度、此の段及御届候也」としたため、親父には申し訳なかつたが、末尾に右保護者として親父の氏名を冒用し、印箱から親父の印を盗み出してべったり紙切れに捺しつけたとき、白々と夜が明けて来た。

退学の日、私は緋の着物に小倉の袴、下駄履き、制帽という出で立ちで、真っ直ぐに校長室へ押し入った。退学届を突きつけられた校長はちょっと意外そうな表情をしていたが、別段危害を加えられそうもないと思われたのか、ぐっと胸を張ってこう云った。「君のような優秀な生徒が、卒業を待たずして本校を去るということは、まことに遺憾である」

外に出てみると、校庭では私のクラスの連中が三八銃を肩に軍事教練の最中だった。職員室前のベランダの鉄欄によりかかっている私を見て、ポーズやカンオケ、パンプーらが教官の眼を盗んで手を振ってくれた。これが友との別れであり、母校の見納めかと思うと、流石に胸の内が熱くなって来るのをどう仕様もなかった。こうして私は6年10箇月に及ぶ六後生活を終止符をうち、母校北野中学を去ったのである。

それから、学徒出陣中に太平洋を2度泳いだり、戦後は露天商や会社倒産などを経験した後、弁護士になった。再び母校を訪れたのは大分経ってからである。

落第放校の経験から私が得たものは、どんな悪条件下にあっても投げ出さない、しぶとい、心構えと、普通の人の3倍もの数の友人たちだった。

(昭和52年8月15日)

我が心の宝——北野6年

品川 謙 (62期 会社社長)

我々—62期—は昭和19年旧制北野中学に入学し、24年新制北野高校2年に編入され、25年3月に卒業した。つまり6年間母校に通学した事になる。この間敗戦という未曾有の体験をはさんだが、この6年間の学校生活を随想風に追憶して見たい。

(入学) 校章に一本の白線が鮮かに入った黒い帽子、「北中」の襟章、白いゲートル、そして「北中」と大きく書かれた黒い肩かけカバン。大きくふくれ上っていたそれらの夢は一度に吹き飛び、戦時中として国防色に統一された制度にどれ丈がっかりしたことか。炎天下で直立させられたま、田村校長の超時間—長時間ではない—精神講話を聞いた苦しさ。敬礼を忘れようものな

ら本当にこわかった上級生。時に無期謹慎誰々と大きく張り出される処分。常に天中との間で争われた陸士、海兵等への入学競争。北野の伝統は僕達が守り難いで行くのだと、知らず知らずのうちに大きな抱負が出来上って行った。

(服部農園) 今の服部緑地は終生忘れ得ないだろう。苦しくなりつ、あった食糧事情の為、あの辺り一帯を農園として米や芋の栽培が行われた。級友一同と田島を耕したり十三の馬小屋から荷車に一ぱい馬糞を積んで、一台5~6人掛りで往復したり、又収穫物の盗難予防の為交代で夜宿したり—その実我々も芋を盗んで貰ったり—あの共同作業の経験は得難いものだ。

(貯水池廻り) 戦争がいよいよ熾烈となり上級生は軍需工場へと動員された後、我々は市内各地へ防火用の貯水池廻りに出かけた。作業後に乾パンを貰えるのが何よりの楽しみだった。

(校庭無銭) 20年に入ると校庭には次々と生徒の手で防空壕やタコ壺が掘られて穴だらけとなり、それをカモフラージュする為、一面にカボチャや芋が植えられた。

(友の戦災死) 一体戦争体験とは何だろう。我々は自らの戦闘体験は無いのだが、度重なる空襲に曝されその為に2人の友を失い野辺の送りをした事は、中学2年生13才の経験し得る強烈な戦争体験であったかも知れない。20年3月に大阪が初めて空襲されて以来、全く勉強どころではなくなり、上級生は工場動員へ行ったり。我々が交代で学校へ泊り込んだり。

そして6月15日の空襲。母校にも雨と降り注いだ焼夷弾攻撃の為、遂に2人の友を失った。肉親の胸にしっかりと抱かれ、遺骨となって校門を去って行った友を見送った時の悲しさは忘れられない。

(敗戦) 私にとってこれ程の精神的衝撃は無かった。小学校以来絶える事なく教え込まれて来た神国日本のイメージ。八紘一宇、天賦無窮、未だ外敵に侵された事のない大東亜共栄圏の盟主日本のイメージが一挙に覆えられたのだから。そして後に来る民主主義とは一体どんなものか想像し得なかった。戦争のない状態なんて想像し得なかった。私らの生れた年に満洲事変がおこり、7才の年に支那事変が、そして10才の年に大東亜戦争が始まったのだから。だから校庭の防空壕を埋めにか、った時、せつかくこしらえたものをと何か物体ない気がした。次の戦争の時まで置いておけばいいの、と思った。

先生の指示によりそれ迄ついていた歴史や地理の本の至る所を盪で消した。過去の日本を抹殺している様な感じだった。

そして勉強とスポーツが再開された。1年前と比べ余りにも大きな自由—気ま、か?—が訪れて来た。然しそれにしても余りにも空腹であった。進駐軍放出のトウモロコシの粉だけでは足りず、食べられる雑草はおかゆに入れてみな食べた。

(あ、男女共学) 大手前高女—高女という言葉のなんと懐かしい事か—との間で強制的に男女が約半数づつ入れ換えられたのは我々の一つ下の学年からだ。我々の中へは最初4名—つまり希望者だけ—の勇敢?をお嬢さん—と云っても、今や40台半ばのオバサン—が見えられた。学校に花が咲いた。

登校が楽しみだった。始めて鉛筆を削って買った時—あ、天国。然し、天は我に勇氣を与えなかった。好もしい人、何となく胸のときめく人と語り合える機会をも与えなかった。

あの時のあの人、今どうしてはるのかなあ。

(委員長の仕事) 戦前の級長コト戦後の委員長は選挙で決められた。委員長の大きな仕事は先生の休み等で自習時間が出来た時、あとの時間の先生と交渉して授業を繰り上げて貰い、如何にして自習を宅習に切り替えるかという事であり、そういう能力に長けている者を選び出した。

(母とのふれ合い) 昭和23年と24年のセンバツ。甲子園には2度出場させて貰った。24年の優勝の原因はと、よく聞かれる。一にも二にもチームワーク。当時の清水監督の言によれば、野球から離れた時にはあんなにバラバラで好き勝手をしている者が野球になると何故こんなに我を出さずにまとまるのか、と不思議に思われる程の和の力であった。私はこ、で更に一つの自己主張をしておきたい。それは打順が9番だった私と8番だった1君—本人の名義のため名を書かない—が実に立派に捨て駒の役割を果たした事である。変なところでヒットを打って流れを変えてくれたら困るバッター。こ、では三振をしてくれた方がよいバッター。下手に打順をつないだりしないで確実にアウトになるバッター。監督にとってそれが捨て駒である。

だからよく三振した。盗塁死もした。—可々—。

実は芦屋高校との優勝戦12回の裏での事だった。6-4と勝ち越し最後の守備についた時、かなり激しい雨が降

って来た。球審はタイムをかけてくれ
そうもない。歯を食いしばってサード
からふとネット裏スタンドに目をやっ
た時、私は驚いた。一人で観戦してい
た母とバッタリ視線が合ったのである。
野球のヤの字も知らない母が、然も一
人で来ているなんて私には夢にも考え
られない事だった。

あの観戦の中から母を見出したこ
と自体全くの偶然と云ってよかった。
その母が、周囲からポツンと一人取り
残された様な感じで自分も雨にぬれな
がら、ハンカチを頬にあて真青な顔を
して一心に私を見続けている。頬は雨
でなく涙でぬれていたかも知れない。
私はその時、生れて始めて血を分け肉
を分けそして心と心を分け合った母と
子のふれ合いというものに強烈に感じ
た。そして燃え、優勝した。

私がこれ程強烈に母と子の情愛を感じ
たのはこれが最初で、そして最後と
なった。あの時の優勝は少くとも私に
関する限り、母と一緒にしてなし遂
げたものだった。

北野での6年間は我々にはかり知れ
ない大きなものを遺してくれた。私に
とっても友の死や母とのふれ合い等得
難い体験があったし、共同作業の喜び
や和の力の尊さを教えてくれた。北野
時代は私にとってまさに心のふるさと
である。

わが北野体験

片山智行 (64期 大阪市大
文学部助教授、中国文学)

昭和24年9月、高2の2学期からわ
たしは北野に転入したのだが、そのと
きには転入試験があり、面接があつて、
その面接ではじめてカリヤン教頭と顔
を合せた。馴ればそれほどでもない
が、初対面のカリヤンはお世辞にも好
人物の相とはいえない気むずかしそう
な顔をしていて、眉根に皺を寄せ、
わたしの疎閑地の高校(ちつとも有名
でない)の名をききなおすと、わたし
の不安をよそに「こんな高校の名前き
いたことないなあ」と困惑したように
いうのであった。ともかく合格させて
いただいたのだから、カリヤン以下先
生方のご寛容にはいまなお感謝してい
るが、このときはなんと北野の威力
を見せつけられたような気がした。あ
とから同じ転校生に出身校をきいてみ
ると、たしかにみなさん県庁所在地の
いわゆる一流高校からの転入であった。

最初が最初なので、わたしは北野に
転入してからは心を入れかえて猛烈強
した。とはいえ、それまで男子ばかり
の高校にいたので、同じ教室に女生徒
がいるのに、ある種の心地よさ(まさ

か女護が島にいるというほどでないに
しても)を覚えずにはおれなかった。

クラスには安井さんという女子のク
ラス代表がいた。すこし斜視の気味が
あったが、知性的で落ち着いた雰囲気
があり、田舎ものになりきっていたわ
たしにとってはほそかな憧憬の対象だ
った。(のち、京大生になっているか
の女と京大の講内で久しぶりに会った。
かの女はわたしの小説を書いていると
いうと、自分も同人雑誌を買わされて、
やたらとむずかしい漢字を使う小説を
読まされているが、あんなのは書かん
方がいいでしょう、といった。かの女
の読んでいたのはまだ無名の高橋和巳
の小説であったはずである。)

ある時、そんなかの女を担任の島内
先生(オンセン)が掃除のあと始末の
ことかなんかで、顔をまっ赤にして叱
りつけているのを目撃した。クラス代
表なのでかの女は代表して叱られてい
たらしいのだが、当時わたしは女生徒
をすべて可憐であると誤解していたの
で、女生徒を先生が叱るなんて考えら
れず、わが目を疑った。まして相手が
あの安井さんではないか。もっとも、
後年自分も高校の教師をして、あんな
に純粹に叱れる先生は貴重な存在だと
思いなおした。島内先生は生徒から見
ていてもどこもなく癖があり、わたし
なんか竹林の七賢人のうちの偏屈なひ
つりを連想したりするのだが、教員室
に行くと、いつもおもしろくもなさそ
うな顔をして、エブリマンズ・ライ
ブリーかなにかの英語の原書を読んで
おられた。このことは印象的で、思
いものわたしは高校の教師時代、とき
おりあの風景を思い出して自省したも
のである。教師はこうあらねばなら
ないのだ。忙いばかりが能ではない。

概して自分が高校に勤めた経験から
いうと、北野の先生方はじつによく勉
学されていたと思う。職員室にはそん
な雰囲気があった。先日も東京で中国
代表団の歓迎レセプションがあり、そ
こで東大中哲の福永光司教授にお会い
したが、先生もかつて北野に勤務され
ていたとのことであった。それで、つ
いつい北野の先生方のことが話題にな
り、いろいろと話がはずんだものであ
った。林校長をはじめ、すばらしい先生
方がたくさんおられて、話題にことか
かなかった。

ところで、わたしの方は北野に転校
して三か月と経たないうちに結核と診
断され、たちまち田舎に舞い戻るはめ
になった。西に向かう汽車に乗って、
淀川を渡るときに見た北野の校舎はい
まもって忘れられない。わずかな期間
ではあるが、わたしに華やかで充実し

た高校生活を味わせてくれた、なつか
しい学びやであった。(いまの北野は
高層アパートに挟まれ、スモッグのも
とに沈んで、ときに電車から見えない
ときがある。当時の北野は淀川の堤防
のあなたにはっきりと威容を誇ってい
た。)

一年数か月の休学生活で、わたしは
すっかり憂うつな人間になってしまっ
たが、北野に復学すると、ふたたび活
力が湧いてくるのを覚えた。以前とひ
とは変わっているが、あい変わらず華
やかで充実した世界が目のまえにあっ
た。このときの自分を三四郎にたとえ
るなら(いさきかおこがましいが)与
次郎役は、クッソーこと酒井九州男君
で、かれが学年新参者のわたしにも気
軽につき合ってくれ、なにかと面倒を
見てくれた。早熟なかれは「民衆の旗
赤旗は……」の歌を教えてくれたり、
それになにより女生徒の情報にも通じ
ていた。なにしろかれは名物男で、行
動的な好漢であったから、女生徒にも
人気があった。かれのおかげで、正岡
子規の『仰臥浸録』や『墨汁一滴』など
を読んで憂うつに休学生生活を過ごして
きたわたしにも、ようやく青春が戻っ
てきた。クラスにはもちろん美禰子が
いた。(このへんのところは作家なら腕
の振るいどころなのだが、作家になり
そこなっているわたしなんか、話がな
まぐさくなるまえにやめておいた方が
身のためであろう。)

この当時の恋愛(つまりは片思い)
はプラトニックであるが、一度だけ女
体のすばらしさに心奪われた経験があ
った。べつにチカンをやったわけでは
ないのだが、廊下を急いで歩いてい
たとき、廻り角で女生徒に正面からぶ
つかり、その結果、幸運にもかの女の胸
に触れたのである。ほんの瞬間的接触
であったにもかかわらず、生まれては
じめて(幼児体験はべつとして)ソフト
で弾力的な、えもいえぬ甘美な感
感を味わった。阿Qが尼さんの頬っぺ
をつなつて、そのすべこい感に魂を
奪われたのも、無理はない。これも男
女共学の余得のひとつかもしれないが、
わたしにとって北野は激しい競争の場
であると同時に、やさしく魅きつける
華やかな世界でもあった。(ところで、
この女性こそ森南海子さんだといつ
たら、叱られるであろうか?)

女性の話を書けと編集者にそそ
のかされて、こちらの筆もついたら
流れがちだが、北野にはなんとい
ても好漢がたくさんいた。男の友情を
ここで書いておかねばなるまい。わ
たしが東大を受験するということをし
きつけると、ゲンこと山元一夫君なんか、

それまでそれほど親しくもなかったのに、東京行の特急券をいっしょに買ってくれた。ついでに宿のことまで心配してくれたのだ。わたしは感動し、自分の買った切符をキャンセルして、上京はすべてかれら一行と行動をとともにすることにした。ゲンの話によると、先輩がちゃんと宿もとってくれているとのことであった。わたしたち六人は雪の降る日に東京に着き、小松雄介、山本次郎ら先輩のとってくれた宿にはいった。もともと、これがなんと渋谷界隈のあいまい宿で、あげく試験の前夜、ひと晩中客をとったのとらないのという女たちの口喧嘩をきかされるはめになった。これのせいにするわけではないが、山條ら超A級の秀才はべつとして、受験前夜でも女性のこととなるとつい興味を持ってしまわたりや山元らは不合格のうき目に会った。それにしても、親切か不親切かわからないのがこの先輩たちである。翌年、われわれは慎重に自分たちで宿をえらび、なんとか合格した。はじめからこうすべきだったかもしれないが、ゲンらの好意を思うとき、あれでよかったといまなお思う。先輩たちはわれわれが入学したあと、よく酒を飲ませてくれた。かれらは当然そのくらのうめ合せをしなければならなかったわけで、その結果、山本次郎氏の学生証なんかは、しばしば飲みしろのカタに飲み屋に留置されるはめになった。

卒業してから学校のよさはわかるというが、わたしにとって北野はいろいろなことを経験させてくれた、華やかで充実した人生の最初の道場であった。

北野想い出さまざま

松島みどり(87期 東大文二2年生)

北野を卒業して、はや2年半。北野で過ごした3年間に近い歳月が流れたわけである。

「女生徒にとっての北野生活」について書くようにとの依頼を受けた時、私は困った。なぜなら、北野在学中の私には「女生徒」という意識が殆どなかったからである。

私が北野の「女生徒」であったことをはじめて意識したのは、卒業後、東京の駿台予備校に入ってからのことであった。

浦和高校出身の友人から、この名門校が男子だけだと聞いたのだった。埼玉県では旧制中学校・女学校を前身とする名門校は男女別学、戦後作られた高校は男女共学だという。私は、一瞬、公立で男女別学とは違憲行為ではないかと思ったほど驚いた。このような制

度は栃木・宮城など関東北部から東北にかけては結構多いようだ。彼らは、男子校は気楽でいいと言うが、私がおの地方にいて女子高へ行かねばならなかったと思うといやである。

受験勉強の厳しい3年間だったが、その中でも結構ワイワイガヤガヤと楽しくやっていたのは、男女の人数差が少なかったからだと思う。今、殆ど男ばかりの経済学部などにいると女子の友人の多かった北野が懐しい。

北野時代を振り返ってみよう。北野の偉大さは何といっても先生方の偉大さによるものである。丸い眼鏡でおっとり窓辺に佇む現国のマルチャン中川先生。眼鏡の奥で鋭い目をキラリと光らせるネコ山根先生。泣く子も黙る恐怖の陰険藤尾先生。ソクラテス・プラトン・般若波羅彌陀・色則是空の足立先生。「これやったの誰ですか？」で黒板の式を消してしまわれる浅野先生。「自明だろ」の頭の良すぎる博もちゃん。コンパスなしで大きな円をととも上手に描かれる山本先生。男生徒しか脚目の中にない「どしどしジャンジャンバリバリ質問して下さい」の片田先生。ボルノチックな小説に絶妙な訳を施される河原先生。(河原先生が物理教室に居られるのが——今もって私には不明である)。直訳片田と意訳河原の中道(?)を行かれるたき田中先生。私達の学年の英語トリオはとにかく圧巻だった。なお、「北野の中の北野」佐賀先生に私は習えなかった。これは今なお惜まれる。

次に、他の一流校の話も聞いても北野ほどよく勉強した(させられた?)学校はない。修学旅行は冬休み中、校内球技大会は昼休み——。入学後すぐの授業では各先生とも「今年現役で京大法学部へ4番で入った生徒は運動会の日でも修学旅行の前日でも毎日必ず7時間勉強した」「よそと違ってうちの英語は1年に10冊ほど読むからなあ」「英語や数学なんか高1でしっかりやっておかんかったらもう駄目です」云々。そして最初のPTA総会では、「全国主要大学現浪別合格者数」の表を配る。書道の阿部先生が「人間、睡眠は3時間で充分。それ以上は情報です。とにかく勉強ばっかりなさい」と言われた時はもう吃驚仰天、聞きしにまさる受験校、大変な学校に入ったものだと恐れ入った。

中でも、数学の早さ・難しさ・多さは日本一ではなかろうか。1年の11月に数Ⅰが終わり、2年の9月に数Ⅱが終わると、文系は3年は問題集ばかり。私達の年は、北野と灘しか使わないという牛会の問題集を、1時間に灘は数

問うちは十数問。卒業直前に数えたという友人の話によれば、3年間でやった問題数は6,000題を優に越すという。いやはや参った。私などは、コト数学に関する限り、1、2年はヒーヒー言い、3年の時はもはや諦観の域に達していた次第である。北野生は京大へ現役でガバガバ受かるが、彼らは文系理系を問わず、数学ができすぎるほどよくできるのである。私は完全な文系型で数学だけが全然できなかつたので、数学の配点の低い東大へ1浪して行った。数学ができなかつたことといい、女で東京へ行ったことといい、私は北野では突わり種かもしれない。

「北野の卒業生は皆、数学と体育が最も印象に残っているようだ」そんなことを在学中に平石先生が言われた記憶がある。私にしても然りである。私は、体育は何よりも(勿論数学よりもはるかに)苦手だった。しかし、体育はできないながらも全力を尽して懸命に努力した。そしてそれがまた楽しかった。水泳、断郊、なわとび(二重とび)——

中学の時25mも泳げなかつた私だが、夏休み中毎日学校のプールへ通い続けた甲斐あって、ひと夏で300m以上泳げるようになったし、泳ぐのがいっぺんに好きになった。大学へ入ってから、海へ出かけて岸から離れた水のきれいな所で思う存分泳げるのも、あの時、無理やり泳がされたおかげである。海へ行っても泳がない人の何と多いことか!公立高校で50m公認プールがあるのは、日本中で北野だけではないだろうかと思う。

数学が今では何も思い出せないし、また思い出す気にもならないのに対し、体育で身につけたことは、一生やり続けたい気がする。——先日、縄とびを手にすると、ちゃんと前の二重とび連続20回ができてとても嬉しかった。また、断郊は北野生活最大の思い出である。今も大阪へ帰って来て阪急電車で淀川を渡るたびに、「ああ、ここを走ったんだ」と河原や堤防や十三大橋が目が走り、満足な思いが心に広がる。冬の寒い時、毎朝6時に起きて家の近くを4~5km走った。「ファイト北野、ファイト六楼」と声を出し続けて。そして断郊当日。勿論、順位は悪かった。だがそんなことはどうでもよかった。とにかく走り終えたんだ。私でもやればできるんだ。その日の、どんよりした曇りの曇から日が見える荒涼とした河原の冬景色の美しさが今も忘れられない。水泳と断郊——運動神経も鈍く体力もない私に「技術じゃない。努力だ。根性だ。根性さえあれば何だってでき

るんだ」ということを教えてくれた。今、応援部の中でバントワリングをやっているが、合宿のランニングの時、いつも松浦先生の顔を思い浮かべ、「こんなことでへこたれては松浦先生に申し訳ない」と思って自分に気合を入れる。他の時でも、気が向けば時々走っている。

私は、3年の初め、新入生との対面式で上級生代表として挨拶をして好評を博したが、その中でも受けた文句に「初めは鬼の暴君とも思われる体育教官室にも、実際は心の優しい先生ばかりおられて、次第に平気で入れられるようになるのです」というのがあった。私自身、中学の時体育がわるかったので、初めのうちは先生方の厳しさがとても恐ろしかった。が、段々と松浦先生をはじめ、すべての先生方が努力を認めて下さり、随分可愛がっていただいた。大手前交流会や体育大会の事務を一任されたりもしたが、楽しい思い出である。

そして卒業直前、体育教官室に松浦先生を訪ね、「3年間どうもありがとうございました。苦しかったけれどもいい思い出にもなりましたし、これから先何か困難に出会った時にも、あの頃のことを力になってくれると思います」と述べると、先生が「あんたはなんでも下手やったけど、一生懸命練習してようやった。2年の時の年賀状に「断郊どうしても100位内に入りたいです」と書いてきたけど、ちゃんと99位やったやないの。これからはしっかり頑張るや」とおっしゃって下さった。あの時は、「もうこれで高校生活何も思い残すことはない」と満ち足りた気持ちで一杯になった。

以来、卒業後も母校を訪ねるとまず最初に体育教官室にお邪魔する。平石先生が私を見るなり「みどりちゃん、婿さん決まったか。決まったら、ちゃんとな、わしに見せに来るんだぞ」とおっしゃる習慣は私が高2の時からですと変わらない。(丁)

たずね人 ???

下の写真を見てお心当りの方は本部まで御連絡下さい。当時の写真数葉をお渡しいたします。



府立北野高等学校々長様

新聞で貴校が文化祭を催されている事を知り謹乍ら祝賀申し上げます。昭和18年の春から秋頃迄の半年間、私は勤め先の田川通りに在った三星鉄工KKに学徒動員として派遣されて来られた貴校の高学年の方々と苦勞を共にして過した者です。その際の記録一切後年の空襲の際焼失して氏名は判りませんが、私は勞務擔當を係としていた關係上、後日何かの記念にもと考えて全員の写真を撮っておきました。

貴校の名を耳にすると、あの頃の元氣一杯誠実そのものと云った青年群像を連想するのです。このネガは焼付けて全員に差し上げる約束でしたが、不慮の歳月を重ねるに機会を失っていたのです。

この度の文化祭は誠に當を得た秋とばかり、早速送らせて頂く事にしました。

あの頃の皆様は、さぞかし大成されて居られる事と信じます。さすが大阪第一級の中学生さんたちだったと当時が懐かまれるのです。

今、私は70を越した老癩の身です。決してお返事を頂く考えはございませんが、33年間早くお渡したいと願う外他意はございません。

では宜しく御取り計り下さいますように。

豊中市旭ヶ丘40-106

大 限 正

TEL 854-3733

気軽にお越しいただける

結婚の相談室です

日本ブライダル協会

松原鉄男(68回卒)

TEL 大阪 945-0677

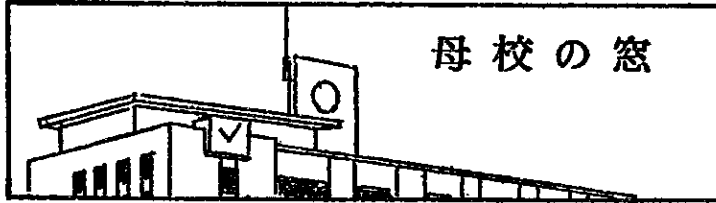
〒540 大阪市東区谷町1丁目42

エルフ大手前415号室

ニッピョウ

業務用食品・洋酒・純氷

日本氷業有限会社(61回古川)



母校の窓

御祝い

- 土屋憲三先生が本年度叙勲の榮に浴されました。
- 浦野博夫先生(元校長・元会長)が今年5月定通教育30年記念会会長表彰を受けられました。
- 伏谷峰榮先生が大阪府教育委員会より昭和51年度の25年勤続表彰を受けられました。なお、昭和50年度は上田浩石・浅野浩治・稲葉憲一郎・福田博造・山脇謙吉各先生が、25年勤続表彰を受けられました。
- 田上泰昭先生が、昨年10月日本中国学会より学会賞を受けられました。おめでとうございます。

御不幸

- 田村清三郎先生(元校長)本年3月
 - 安藤清二先生 本年1月
 - 南部実吉先生 昨年10月
 - 松本次郎先生 昨年11月
- おなくなりになりました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

職員の異動

- 上田浩石先生(S 6-28・41~51英語)が退職され、灘高校にご転動になられました。
- 福田勝司先生(S 48~52社会)は花園高校へ。
- 楠瀬善男主事は(S 40.9~52)は主査として住之江高校へ転動されました。
- 馬野京子主事(S 45~52事務職員)は中河内教育事務所へ転動なさいました。
- 新しく
田村光一先生(社会)を花園高校から、寺井あかね先生(英語)を南寝屋川高校から、また 桜井千賀子先生(英語)は新任として、それぞれ4月にお迎えしました。

体育館新設

総工費4億円にて第2体育館跡に更に大規模な新しい体育館を建設することになり既に着工、基礎工事が始められています。完成はS 53年3月31日の予定です。

体育館 高さ17.2m、本体44m×30m→1320㎡(1階)
1階、柔道場(210㎡) 剣道場(281㎡) 男(女)更衣室各77.5㎡、シャワー室、食堂245.5㎡(13.5×18)
2階、競技場1069㎡(35.5×30)、ステージ(15×4.5) 67㎡、体育教官室71㎡
3階、ギャラリー(東西、北巾1.15m 南巾5.2m)

恩師の霊前に

白井次郎(大15卒)

恩師安藤清二先生が、昭和52年1月2日亡くなられた。この悲報が伝わるや、正月にもかかわらずクラス幹事を非常召集して、一人でも多くの人に葬儀の詳細を通報した。

本葬は1月8日午後2時より、曾根の「萩の寺」で執り行われた。さすがに永年教職にあられた先生にふさわしく、当日は関係各校の教え子をはじめ、数百名の参列者で境内は埋まった。

読経・弔辞・焼香の後、われわれの申出を受けられて、会葬者によって「北野」をはじめ豊中高女、桃山学園の校歌が斉唱され、最後に全員で「仰げば尊し」の合唱を捧げたのであるが、唱う者も涙、聞く者も涙の感動的場面が展開され、今更の如く先生の徳を慕う人の多きを痛感された。

厳しい中にも慈愛あふるる先生の教えを追懐し乍ら、われわれはよき学校でよき師を得たとの思いをかみしめた次第である。

六稜ラグー大阪府高校OB大会に 5年連続優勝を飾る

大阪のラグビー界では、毎春ラグビー協会の主催で高校OB大会が開かれており、今年で14回になります。特に昭和48年度の大会より、第10回を記念して満40才以上の部が設けられ、第一部(満40才以上)、第二部(若手OB)の大会となりました。

我が六稜ラグーは、第1回大会より之に参加して居りますが、若手OBは過去に準優勝が1度のみで優勝は全く今一步であります。一方第一部は、大会が設けられるや直ちにこれに参加、往年の実力を遺憾なく発揮し、連続連勝破竹の快進撃を続け、今年で目出度く第1回大会より五年連続の優勝を飾りました。

尚、六稜ラグーはこの様に楽しい集いを持って居りますが、その一方では母校ラグビー部に往年の勇姿を取り戻してもらう様、日毎の指導も続けて居ます。因みに、母校ラグビー部51年度の主大会の成績は、国体予選第1次予選優勝、第2次予選2回戦進出。全国大会大阪予選は準優勝戦へ進出。近畿大会大阪予選は準優勝進出と徐々に力をつけて来て居ります。

昭和52年3月20日 比山實二(63期) 記

機械工具・樹脂製品・平和重油ストーブ
〒532 大阪市淀川区木川東1丁目3番24号

株式会社 **ビニビラ**

代表取締役 平佐 國夫(第50回卒)

電話大阪06 { (301) 4 6 5 1~6
(303) 8 4 4 1~2

支店 札幌・広島・福岡 営業所 仙台・名古屋
高山・高松 出張所 釧路・出陣・大分

登録商標
夕霧そぼ

瓢 亭

梅田新道お初天神東へ入ル
TEL (313) 4 0 4 5

六稜同窓会だより

80歳の記念行事

大五会 (29期)

週刊読売7月23日号に「現代の名門高校」の見出しで北野高校が紹介され写真には太い角材の門柱と木造の校舎が出ていて、大正5年卒業の私達には懐かしいことでした。

それで私達大五会で昭和41年に発行した「中学卒業50周年」を取り出して暫し微笑しつつ読みました。

来年は私達大多数は80歳になりますので私達の文集第5巻「回顧80年」を編集し孫たちのために残すことや亡き同期生の慰霊祭をする事に決定。

原稿書きは頭のよい運動で、老化防止にもなりますので、現存の34人すべて執筆される事を会では切望しています。

(T5) 栗飯原健三

六稜三七会

私達大正13年の卒業生は、毎年同期生の会をやっている。また4年前から、「六稜三七会便り」を発行して、所感や思い出話、消息などを書いてきたが、引続いて本年もその第4号を目下編集している。昨年以來、是則、福井、中川、白坂の4君が、他界されて、だんだん淋しくなってきた。本年は5月20日、大阪警察会館に下記22名が集まった。

恩師寺島、保田両先生が、御健康の都合で欠席されたのは残念であった。(出席者)

新井、岩永、一の瀬、大西、緒方(神戸より)、尾形、笠松、嘉悦、小西(荘)、島、滝川、田中(清)、仁谷(東京より)、野々田、橋本薫、橋本清幸、前野、松倉、宮嶋、百瀬(岐阜より)、吉田、弓削(京都より)。

(T13) 嘉悦 新一

六稜三九会

卒業50周年全国大会

晩秋の11月14(日)～15の両日、この大会は予定の通り近江舞子の「ダイヤモンド琵琶ヴィラ」で開催され、次の23君が参加した。

(東京より) 菅瀬正重・中谷孫一・三宅利雄

(関西より) 大浦信三・川瀬 勇・黒田種一・小安忠夫・古島 要・坂口義治・田村武教・中村武雄・高橋真二・徳垣藤一・西宗康夫・森田弘毅・山本正英・四方田欽一

(ゲスト) 岡田喜雄(昭2卒)

(幹事) 飯田精次郎・白井次郎・林芳郎・松井順一

会場は同クラブ専務理事岡田君のお世話による豪華なヴィラで、関西組は大体定刻3時半に集まり、東京組は新幹線の事故等のため未着のまま開会。

最初に74名の物故会員に対し黙祷を捧げた後、各幹事より会計報告。岡田君寄贈のビールで乾杯を行い、次いで最近各種出版等の川瀬、香村、田村3君より、作品の披露があつて第一部を終って入浴する。

第2部は5時半より食堂にて再会。当ヴィラご自慢の近江牛の刺身などに舌鼓を打つうちに、東京組も順次到着、宴は高潮に達した。

8時頃一応閉会して4人づつ各自の部屋へ引揚げ、ここでも積もる話に夜の更けるのを忘れ、一部有志は岡田君の部屋へなだれ込んで、改めてウイスキーを傾け、50年前の学童に還って、珍談・放談の時を過ごした。

明くれば、昨日と打って変わった快晴。予定した比良山は雪のため登れぬということでコースを大原行きに変更して、午前10時、玄關前で記念撮影の後、マイクロバスで近江舞子駅へ。京都へ直行する人もあるので、駅頭で校歌を高

唱し、岡田君のリードで「三・三・三拍子」を行って一応解散となる。

さて、大原行きの13名は堅田で下車、タクシーに分乗して山越えである。折柄最高層の紅葉を左右に眺めつつ三千院へ。院内参観の後、門前の料亭で3つのカンテキを囲んで再び杯をあげて、酒どうぶに喉をとり、尽きぬ話題に最後の文飲の時を惜しんだ。

ここで寂光院へ行く人と、下山する人とに別れ、名残りを惜しみつつたもとを分かった。

思えば楽しかりしこの2日間。われわれは年が経つにつれ、学友のよさを一しおかみしめたのであった。

ご病氣所用のため出席できなかった方も次の会合にはぜひご参加下さい。

旧北野中学の校門を出て

昭二会 (第40回生)

大阪北区芝田町にあった旧北野中学校(今の済生会病院の在るところ)の校門を出て50年、生きとし生けるものまさに我等、近く古希を迎えんとする六稜昭二会(第40回生)は昭和52年5月22日(日曜)夕六時、福井県敦賀市にある「ダイヤモンドクラブ」つるが、に続々集まりました。

恩師の平田肇雄、広田種三郎、植村文時の三先生を迎えて40名が懐かしい顔を描きました。齡は取っても、かつての美少年、婉白時代の倅を偲んで和氣と稚氣に溢れる雰囲気の中で昨年暮に亡くなられた安藤先生をはじめ諸先生に感謝し、亡き友らに思いをめぐらしつゝ、冥福を祈って黙祷を捧げました。

ついで恩師三先生から昔を今に訓示?を頂戴し、いよいよ宴たけなわとなり懐旧談と、もに、われら今こゝに生きて会する喜びを新たに深げゆく夜にこだまして「仰げば尊し」を派して奉唱、続いて高らかに思い出の校歌を合唱して枕をともにしました。

翌日はゴルフ組の観光組に分れて、三方五湖めぐりや、美浜原子力発電所などを見学して午後三時、敦賀駅で散会しました。

財団法人 洪庵記念会

産科 婦人科 緒方病院

緒方正美(53回)・緒方正世(54回)・緒方正名(56回)

大阪市東区今橋3丁目18番地 電話 06 (231) 3255・3256・3257

この感謝会では六稜の校紋を鮮やかに浮かして、

校門を出て50年

師の恩に謝し

友を思い感無量

嗚呼母校北野中学

と染め抜いた「茶掛けのれん」をクラス全員、及び亡き旧友遺族、亡き恩師ご家族へも配付して感謝の誠を捧げました。

なお六稜同窓会理事、園克巳君（大阪平野町）御霊神社宮司一昭和2年卒一が去る7月4日逝去され、昭二会から40数名が参列しました。

（岡田 記）

六稜四五会

入学50年記念同窓会

昭和2年母校に入学して50年になるので今年は盛大にやらうと企画して、会場も東京在住者にも参加し易いように新幹線の便のある浜松の館山寺温泉に設け、一泊で翌日は、ゴルフと遊覧もできるようにした。案内は2ヶ月も前から住所の判明している150名に発送しましたところ、38名の多数の参加申込があつて当日を楽しみにしていました。

好事魔多しというべきでしょうか、5月7日の当日は新幹線の架線事故があつて、開会は3時間も遅れました。集った人数は29名でした。恩師、水鳥喜平先生も万難を排してお顔を見せて頂き、写真のように皆んな元気で盛大な同窓会を開くことができました。

当日の出席者——水鳥喜平先生、金井篤良、川崎祐宏、里田美雄、杉本正太郎、高山捷一、俵達博、灰井正二、富田成久、中島尚久、瀧波清一、南部博、広瀬豊三郎、藤田保彦、布施敏信、古江正市、平井透、松井正吉、松井一雄、松葉登起男、松山謙三、森田保、森吉彦、山田元四郎、川上陸郎、野崎隆治、野田隆一、杉沢英男、植田幸男以上29名

（昭52年5月8日 松井一雄記）

六稜伍仁会

52期生の集い「六稜伍仁会」では11月19日、帝人ビル17階（大阪市東区南本町1-11）で全国大会を開いた。

なつかしい校旗、校歌が飾られ、校歌、応援歌が流れる会場——実に30周年ぶりの会合とあれば、お互い、どことなく若かりし頃の面影を止めるとはいえ、頼りは胸にある一片の名札。

出席者57名。社長さん、役員さんは揃って捨てるほど。教授、教諭、弁護士、酒屋、鉄板屋、ゴルフ屋……とズラリ。豪華な布陣だが、おツムの方はかなり薄い方や光り輝く方々が多く、流れきし歳月、有為転変の激しさを物語りつつある。

開会当初は何となく「お見合い、にも似たるはじらい(?)」もありつれど、盃がめぐりグラスを重ねいくうち、互いに紅顔の昔にかえり、そこここに笑声ウズ巻くかと思れば、一隅では「酒を傾め、煙草もやめよ」と精神訓話をたれるご仁に、聞くご仁も現れ、遠慮なき同窓の集いのよさを感じしめた。

同窓一政治もなければ、金儲けもない。遠慮もなければ、ゴマすりもない。これがこの集いのよさなのである。

この輪をさらに拡大して、女房一こども一孫までも集結すれば、さぞかし壯観になり、大ニュースにもなりかねないと痛感したのは私ひとりではあるまい。

今回は恩師をも交え、できれば古びた温泉宿にくつろいではとも思った。

今回、何かとお世話をかけた高橋、森岡、田中の諸兄に深甚なる謝意を表します。とくに、わざわざ、お出まし下さって何かと会のお世話頼った森岡夫人には厚くお礼を申し上げます。

（戸咲 記）

六稜六二会

本年度六二会総会は6月4日(土)午後5時から、素晴らしい眺望のあべのアポロビル12Fロイヤルホール（支配人が六二会伊達孝三郎君）で行われた。参加者は87名で、年々増加の一途をたどり、相変らずの大成況振りであった。



昭和52. 5. 7 六稜四五会入学50年記念同窓会

（於 館山寺国際観光ホテル）

ゴルフ場のエントリー専用(コース150ヶ所)

阪神百貨店6階

阪神ゴルフガイドコーナー

藤田政江(昭和28年卒)

コーナー専用電話(06)341-2345・5566

水曜日定休

クラブだより

52.8.1 現在

【美術】

51年8月 岡山県牛窓へ合宿
 51年9月 第29回全大阪高校美術芸
 展出品
 52年4月 神戸へ写生旅行
 現在部員数 17名
 放課後毎日活動し、各人の個性を重視
 し、自由な創作活動をしています。
 8月には白馬へ4泊5日の合宿予定。

【剣道】

大阪府高校総体で男子1-2 対太成負
 (1回戦)、女子1-2 負(1回
 戦)。
 国体予選(個人戦)で男子1-1 対福島
 (PL)負(1回戦)苗村、小安村錦城
 (八尾東)負(1回戦)
 北摂学校剣道大会で男子1-1 対浪商
 本数勝(1回戦)男子4-0 対三島勝
 (2回戦)男子2-3 対豊中負(3回戦)
 女子0-1 対島上負(1回戦)
 新人戦で男子3-2 対上宮勝(2回戦)
 1-1 対原本数勝(3回戦)、4-3 対
 貝塚南勝(4回戦)、2-3 対関西大倉
 負(準々決勝)
 全国高校総体予選団体戦で女子1-1
 全国高校総体予選団体戦で男子3-0
 対藤井寺工勝(1回戦)、2-2 近都島
 工代表戦勝(2回戦)、3-1 勝
 (3回戦)、1-3 対浪速負(4回戦)
 女子0-2 対天王寺商負(1回戦)
 定期戦対天王寺、男子7人戦1-5 負
 女子5人戦1-3 負、男子11人勝抜戦
 0-1 負。

【野球】

第58回全国高校野球選手権大会(大阪
 大会)、北野6-0 汎妻(2回戦)、北
 野3-1 大阪学院(3回戦)、北野1-
 9 明星(4回戦)
 51年度近畿大会大阪予選(秋季)、北野
 0-7 大阪市立(2回戦)
 52年度近畿大会大阪予選(春季)、北野
 1-9 大阪学院(2回戦)
 第59回全国高校野球選手権大会(大阪
 大会)、北野4-3 高津(2回戦)、北
 野12-5 山本(3回戦)(8回コールドゲ
 ーム)、北野9-4 淀川工(4回戦)、北
 野1-2 大阪(5回戦)(ベスト16に残
 る)
 定期戦、対浪商高6-0 敗、対天王寺
 高9-5 敗、対浪商高6-4 敗、対市
 岡高11-5 敗。

【ラグビー】

第56回全国高校(大阪予選)38-10 対布
 施工勝(2回戦)、30-0 対枚方高勝(3
 回戦)、44-6 対市岡高勝(4回戦)
 8-50 対浪商敗(準決勝)
 第28回近畿高校(府予選)、13-3 対大
 和川高勝(1回戦)、21-19 対東住吉高
 勝(2回戦)、29-0 対登美丘高勝(3
 回戦)、7-32 対近大附高敗(ブロック
 準決勝)
 府民大会兼国体一次予選、52-0 対浪
 速高勝(1回戦)、24-6 対高田林高勝
 (2回戦)、11-6 対東淀川高勝(ブロ
 ック優勝)
 国民体育大会(府二次予選)、10-34 対
 茨田高敗
 定期戦、対洛北高41-4 勝、対天王寺
 高19-23 敗

【柔道】

大阪高等学校総合体育大会で2-3 対
 西野田工業負け51/8
 大阪高等学校新人柔道大会兼近畿大会
 予選3-4 対関大一高負け51/11
 インターハイ大阪府予選2-3 対浪商
 (準々決勝)負け52/5
 定期戦対天王寺高7-3 負51/11、
 対天王寺高7-3 負52/6

【女子バスケットボール】

第31回大阪高校総合体育大会対桜塚34
 -19 負(1回戦)
 第24回大阪高校バスケットボール新人
 大会兼第24回近畿高校バスケットボ
 ール大会大阪予選兼第7回全国高校バス
 ケットボール選抜優勝大会大阪府予選
 対金剛会50-34 負(1回戦)
 第32回大阪高校バスケットボール選手
 権大会、1回戦対大阪女学院98-21(1
 回戦)勝、2回戦対河南126-21(2
 回戦)負

ガンバッテマス!!

ラグビー

下平憲義(3年10組)
 オーストラリア派遣の全日本高校
 ラグビーチーム主将。

テニス

小若雅彦(3年7組)
 全国高校総合体育大会テニス選手
 権出場。

陸上クラブ

福田 篤
 五種競技近畿大会出場。
 中川典子
 400m 近畿大会出場。

試薬

石津製薬株式会社

取締役会長 石津 作次郎(明治38年卒)
 取締役社長(薬学博士) 石津 一貫(昭和13年卒)
 常務取締役 石津 純正(昭和17年卒)

本社 大阪市東区道修町2丁目26 電話(06)231-5003代表
 工場 大阪市鶴見区鶴見4丁目17番の86号 電話(06)911-3786代表
 九州営業所 福岡市東区宮松4丁目8番7号 電話(092)611-1561代表

六稜同窓会会則 (昭50. 4. 1改正)

第1条 本会は六稜同窓会と称する。

第2条 本会は会員・特別会員をもって組織する。

1. 会員は大阪府立北野高等学校及びその前身校の卒業生及びこれに準ずる者。

2. 特別会員は母校の教職員及び旧教職員。

第3条 本会は会員の親睦を図り母校の発展に寄与し社会公共に貢献することを目的とする。

第4条 本会に次の役員を置く。

1. 名譽会長 母校々長を推す。

会長 1名 理事会の推薦により会員中より選出する。

副会長 若干名 理事中より互選し会長がこれを委嘱する。

常任理事 若干名 理事中より互選し会長がこれを委嘱する。

理事 若干名 年度幹事 若干名 第5条の規定により推し会長がこれを委嘱する。なお理事については必要と認めるときは会長が委嘱することができる。

監事 若干名 会員及び特別会員中より会長がこれを委嘱する。

2. 名譽会長は会長の委嘱により本会を代表する。

会長は本会を代表する。

副会長は会長を輔佐し、その職務を代行する。

常任理事は常任理事会を組織し、重要事項を協議する。

理事は理事会を組織し重要事項を協議する。

監事は本会資産の管理に任じ、収支決算の監査をする。

年度幹事は各年度会の運営をはかる。

主事は本会の事務を分掌する。

3. 役員任期は何れも2カ年とする。

4. 顧問を置くことができる。

第5条 会員は年度毎に年度会を組織し、理事1名(但し63回以降は男女各1名)及び年度幹事若干名を選び本会に報告する。

第6条 本会の経費は会費、寄附金、その他の収入をもってこれに充てる。

第7条 本会は次の事業を行なう。総会の開催、会員名簿、会報の発行、その他。

第8条 本会の会計年度は4月より翌年3月までとする。その常務は主事これを取扱い理事会の承認を得て前年度の決算を会報に掲載する。

第9条 本会則の改正は総会又は理事会の決議を経なければならない。但し緊急を要する事項は常任理事会が議決することができる。この議決は最も近い総会又は理事会において承認を得なければならない。

附 則 本会事務の執行に関して必要な細則は理事会の議決を経てこれを定める。

編 集 後 記

○—亡くなられた藤田栄隆氏の後を受け継いで、編集の仕事をするようになりました。いたって経験不足の者ですが、お見苦しい点は何卒御容赦願います。

○—総会の御案内、東京六稜会はじめ各期同窓会の報告等、コラム欄の作り方については従来の方針を踏襲しました。

○—目新しいところとしては、随想欄があります。会報が年に一回、総会も年に一回というのが、これまでの六稜同窓会における人心交流の実状でした。しかし、この程度の交流では、期をこえた先輩後輩間の相互理解としては充分ではありません。因縁が同じ釜の飯を食わしてくれた仲間同士は、もっとよくお互いの姿を理解し合いたいものです—その第一歩として、随想欄を新設し、世代をこえた会員間の率直な意見の交流をはかることにしました。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

○—六稜連兎はひとつ、裸かのつき合いをしましょうや!! この会報がその一助となることを祈っています。そうしてまた、下の写真に見られるような公益事業の花を咲かせましょう。新しい世代の卒業生の諸君、若々しいヴァイタリティと創造力で以て、今後とも御協力のほどお願いします。(山本)

〒532

大阪市淀川区新北野2丁目5-13

大阪府立北野高等学校内

六稜同窓会事務局

TEL 06-303-5661 (代)

振替 大阪68025

